

第3回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日時： 令和2年10月30日(金)14:00～15:00

出席者： 学校法人工学院大学

(敬称略) 住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京瓦斯株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ

KDDI 株式会社

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

新宿区

東京都

開催方法： Web 会議

- 議題：
1. 開会の挨拶《東京都宮坂副知事》
 2. 本年度事業の進め方の確認・本日の位置づけ
 3. 仮説検証 PT(前半)の実施結果の報告
 4. 課題解決 PT・都市 OS 検討 PT の中間報告及び討議
 5. 広報・巻き込み TF の進捗状況の報告
 6. 次回の予定の共有・閉会の挨拶《一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会》

資料： 1. 本編資料

1. 開会の挨拶(宮坂副知事)

- 開会の挨拶(P.1)
- 前回の第2回協議会以降、デジタルテクノロジーを活用した西新宿の課題解決に向けた検討が始まり、実証実施に向けた準備が進んでいる。実証実施に当たり、課題解決アイデアの提案、実証場所等のリソース提供に関して、環境改善委員会や通信事業者各社、新宿区の多大なご協力、ご尽力に感謝申し上げます。
- 西新宿の課題解決をテーマとしたピッチイベントでは、多くのスタートアップから具体的で素晴らしい課題解決アイデアを提案いただいた。環境改善委員会や通信事業者各社からの提案と共に、西新宿における様々なサービスの実証に繋げていきたい。
- また広報関係では、協議会のホームページやLINEが開設された。スマートシティ化の推進のためには、西新宿に関わる人々の合意形成を図り、ニーズに応えることが大切である。引き続き、西新宿に関わる人の意見を、デジタルテクノロジーを活用して収集し、共に未来の西新宿を一緒に作り上げていきたい。

2. 本年度事業の進め方の確認・本日の位置づけ(事務局)

- 協議会の運営方針(案)、プロジェクト全体スケジュール概要(P.4~P.5)
- 本日の第3回協議会では仮説検証PTで行った西新宿の課題取りまとめ結果の共有、課題解決PT・都市OS検討PTの中間報告、11月5日(木)より実施する普及啓発体験イベントの取組発表内容の共有、先日ホームページ・LINEの運用を開始した広報・巻き込みTFの検討・取組状況を共有する。

3. 仮説検証PT(前半)の実施結果の報告(事務局)

- 課題調査の概要及び実施状況、仮説検証PTの進捗結果共有(P.7~P.8)
- 仮説検証PTでは西新宿の課題仮説立案と仮説検証を実施した。本日は仮説検証に関する追加情報を報告する。
- 第2回協議会の際にアンケートを通じて検証した西新宿の課題と4つの課題解決に向けたテーマを提示した。第2回協議会後の8月に、西新宿に対して不満を感じている層に該当する7名のアンケート回答者を対象に、具体的な課題を感じる状況についてインタビューを実施した。今後、課題解決策を検討していく上で、有用なインプットになるものと期待できる。
- インタビュー結果の共有:インタビュー対象者サマリ(P.9~P.12)
- アンケート回答者の中から「働く」、「暮らす」、「遊ぶ」、「ブランディング」の観点で西新宿に対して不満を感じている層に該当する7名を抽出し、インタビューに協力をいただいた。
 - 「働く」という観点では、20~40代の女性の不満が強い
 - 「暮らす」という観点では、属性間の差異はあまりない
 - 「遊ぶ」という観点では、30~40代男女の不満が強い
 - 「ブランディング」という観点では、20~30代の女性の不満が強い

- インタビューで得られた内容について簡単に紹介する。
- 「働く」という観点では、コロナの影響もあり、広い会議室に利用が集中し、会議スペース不足に悩んでいる状況に関するコメントがあった。リモートワークが進んでいるとはいえ、リアルな会議場所のニーズがあることが伺える。
- 「暮らす」という観点では、清潔感が感じられない背景に、自然が不足している事や地下道において日の光が入らない状況に関するコメントがあった。また、西新宿エリアはビルから見下ろすと緑が豊富だが、地上の道を歩く人の目線の高さに緑が少ないということは一つの発見であった。
- 「遊ぶ」という観点では、新宿中央公園は良い評価があるものの、物理的に遠いために訪れられない状況に関するコメントがあった。まちなかに、団らんでできる場所のニーズがあることが伺える。
- 「ブランディング」の観点では、情報収集ツールとして主にSNSを活用している事や、まちなかを移動する際に、勤務先以外のビルに入っているお店が分かりづらく、利用しない人が多い状況に関するコメントがあった。SNSを活用した情報発信やまちなかでの情報発信がより重要なものであることが伺える。
- 課題解決PTの実施方針：課題解決に向けたテーマ案(P.13)
- 第2回協議会で報告した「地域の魅力創出」、「認知度向上・地域への参画促進」、「移動環境の整備」、「新たなワークスタイルの確立」の課題解決に向けた4つのテーマを基に課題解決策を検討している。
- 西新宿の課題解決テーマ及び取組の方向性(P.14)
- 各テーマの取組の方向性を以下の通り整理した。
 - 1つ目の「地域の魅力創出」は西新宿の隠れた魅力や財産の発掘・活用・可視化
 - 2つ目の「認知度向上・地域への参画促進」はまちとユーザーの直接的なコミュニケーション環境の拡充
 - 3つ目の「移動環境の整備」は安心安全に移動できる移動手段やルートの提供
 - 4つ目の「新たなワークスタイルの確立」はフレキシブルなワークスタイルの実現

4. 課題解決PT・都市OS検討PTの進め方(事務局・一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会・東京都産業労働局・東京都戦略政策情報推進本部ICT推進部)

- 課題解決PT・都市OS検討PTの実施方針(P.16)
- 課題解決PT・都市OS検討PTは、第2回協議会の際に共有した通り合同開催をしている。両PTは、今年度の実証を目指す短期的な視点と、来年度・再来年度の実行を目指す中長期的な視点に分けて検討を進めている。
- 課題解決PT・都市OS検討PTの進捗結果共有(P.17)
- 両PTは本日までに2回開催しており、今年度の実証実施に向けた課題解決策に関する討議を中心に進めてきた。

- 課題解決に向けたテーマ及び取組の方向性(P.18~P.19)
 - 本PTの検討は、仮説検証PTで導出された課題解決に向けたテーマ及び取り組みの方向性を踏まえて進めている。
- アイデア募集結果及び今年度実施の実証内容の共有(P.20~P.21)
 - スタートアップ、協議会構成員各社、その他の個人や企業から広く課題解決アイデアを募集した。スタートアップに関しては、東京都産業労働局のスタートアップピッチ事業を通じてピッチイベントを2回開催した。ピッチイベントの概要と結果を産業労働局より報告いただく。
- 都政課題解決型スタートアップピッチ事業の説明(P.22)

(東京都産業労働局)

 - 産業労働局では「UPGRADE with TOKYO」と題して、行政が抱える課題をスタートアップの革新的な製品やサービスの力で解決することを目指し、昨年よりピッチイベントを開催している。今回のピッチイベントは応募テーマに分けて2回開催した。
 - 第1回は「デジタルを活用した西新宿のまちの魅力向上」が応募テーマであり、フードトラックサービスを提供する株式会社Mellowが優勝した
 - 第2回は「安心安全に移動できる移動手段やルートの提供」が応募テーマであり、オンデマンドシャトルサービスを提供する株式会社NearMeが優勝した
- アイデア募集結果(P.23)
 - 合計で48件のアイデアを提案いただいた。
 - 一般募集の25件のうち、企業から23件、個人から2件のアイデアを提案いただいた
 - 通信事業者・環境改善委員会への提案リクエストの23件のうち通信事業者から18件、環境改善委員会から5件のアイデアを提案いただいた
- 今年度の実証実施を目指すアイデア抽出の考え方(P.24)
 - 48件のアイデアの中で今年度実証を目指すものを、フィールド提供者のニーズの有無、西新宿の課題との適合性、実現性の観点から抽出し、ピッチイベントの優勝者と合わせた7件の実証実施を目指すこととし、現在実証の企画・調整を進めている。各実証実施者の検討状況は主なフィールド提供者である環境改善委員会より報告いただく。
- 実証実施企画内容サマリ(P.25)

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

 - 現在7件の課題解決アイデアの実証に向けて、各フィールド提供者と協議を進めている。内容について簡単に紹介する。
 - 1つ目は、東日本電信電話株式会社による実演芸術部活動コミュニティである。西新宿エリアの魅力創出に繋げるべく、西新宿に拠点を置く日本芸能実業家団体協議会等の文化・芸能のプロ集団と連携し、落語をはじめとする芸術を通じて、話し方や表現力の向上を目指したコミュニティ活動の実証を検討している。活動方針として、SNSやロコミを通じた人が集まる仕組みの形成などを目指す。12月~1月ごろの実施を目指し、現在会場の調整を進めている

- 2つ目は、「UPGRADE with TOKYO」で優勝した株式会社Mellowによるショッピングモビリティの取組である。フードトラックをはじめとし、八百屋、パン屋、フレグランス屋、花屋など、様々な店舗の出店を可能とするショッピングモビリティプラットフォームを運営しており、今回は出店業態や出店時間帯、曜日などに対する西新宿エリアの人々のニーズを検証する。既にローンチしているサービスのため、実施場所の調整がつき次第実証開始予定である
- 3つ目は、シスコシステムズ合同会社のスマートサイネージの実証である。SNSと連動した西新宿エリアに関連する情報の発信や、まちのユーザーとの双方向コミュニケーション、都市OSの実証などに取り組んでいただく予定である。期間は12月ごろから開始する想定で設置場所の調整を実施している
- 4つ目は、「UPGRADE with TOKYO」で優勝した株式会社NearMeのオンデマンドシャトルサービスの実証である。密を回避した安全・快適に移動できる9人乗りの大型タクシーとユーザーのマッチングを行うサービスで、新宿駅・新宿中央公園間等の少し距離のある目的地への移動などにおけるニーズを検証し、年内の実証を目指す
- 5つ目は、株式会社ビーブリッジのARガイド・ARナビゲーションの取組である。スマートフォンのアプリを活用し、ARでエリア内における迷子時間を解消する。魅力的なスポットを発信するプラットフォームとしての活用も検討している。10月下旬にアプリをリリースし、2021年1月から西新宿エリアに特化した機能を実証予定である
- 6つ目は、株式会社コトブキ・大成建設株式会社による屋外オフィスサービスである。西新宿エリアにおける新たな働き方として屋外にワークスペースを設置し、西新宿エリアのワーカーのニーズを検証する。サイネージを活用し、ワークスペースの空き状況等を配信することでワークスペースの利用を促進する予定である。実施場所の調整次第であるが、年内の実施を目指している
- 7つ目は、株式会社スペースマーケットによるワークスペースマッチングの取組である。既にサービスとしてローンチされているワークスペース、空き会議室のマッチングプラットフォームであるスペースマーケットWORKにおける、西新宿エリアの施設を充実させることでユーザーの利用ニーズを検証する。現在、賛同している企業との調整を開始しており、調整がつき次第、西新宿のワークスペース、空き会議室の掲載を開始予定である

■ 西新宿エリアの商店街と連携したキャッシュレス決済の実証について(案)(P.26～P.27)

(東京都戦略政策情報推進本部ICT推進部)

- 現在検討中の西新宿エリアの商店街と連携したキャッシュレス決済の実証について説明する。西新宿エリアの商店街と連携し、商店街に所属する全ての店舗でキャッシュレス決済を導入し、有用性を確認する実証を行うことを目的とする。
- スマートフォンで決済するキャッシュレスについては、消費者側にとっては便利であるが、提供側には手数料の負担がある。キャッシュレスを導入することによって、負担を上回る店舗

のバックオフィス業務の効率化が実現できるか検証する。

- 今後は、西新宿の商店街への実証参加に対する意向の確認及びキャッシュレス事業者への声掛けを行う予定である。その後、実証に参加する商店街とキャッシュレス事業者のマッチング、事業者選定を実施し、来年1月より1か月間の準備期間を設け、来年2月～3月の間に実証を行う。
- 会計年度が替わるため、来年3月末に中間整理を行うが、4月以降も条件が許せば継続して実施する予定である。

—以下質疑応答—

- 東京都が実施するキャッシュレス実証は、既存のキャッシュレス事業との相違点はあるか。また、店舗側が支払う手数料の違い等があればご教示願いたい(発言者A)
- キャッシュレス事業者の多くは普及拡大を図るために店舗手数料の無料設定や、引き下げを行っている。今回の実証については、キャッシュレスを商店街に導入した場合の効果検証を目的としている。実証の実現に向けて、事業者からの更なる手数料引き下げや、手数料引き下げ期間の延長など今後調整を進めていきたい(東京都戦略政策情報推進本部ICT推進部)
- キャッシュレス化の取組には賛同するが、実証の検討を開始した経緯について伺いたい(発言者B)
- 西新宿スマートシティ協議会の取組に関して、地元の町内会へ説明に伺った際に、キャッシュレス化の取組有無に関する問合せを受け、立案した次第である(東京都戦略政策情報推進本部ICT推進部)
- 経済産業省のキャッシュレスに関する調査レポートが参考になる。調査レポートではキャッシュレスにおいて年齢間での情報格差がないことを示している(発言者C)
- 他に質問や意義等がなければ、この内容で東京都に検討を進めていただく(事務局)
- 課題解決PT(中長期)の実施方針(案)(P. 29)
- 課題解決PTの中長期視点での進め方は、各主体が課題解決アイデアや人材、フィールド、データといったリソースを持ち寄って討議をする場とする。
- 今年度から検討・討議を開始し、具体的な実証は来年度を目指す。ただし、中長期の課題解決PTで討議された実証の実施は約束されるものではない。
- 実証については、各主体や賛同者が連携、役割分担をして実施する。そのような出会いを生む場として、課題解決PTをプラットフォームとして運営していきたい。
- 課題解決PTで実施する実証への参加メリットは、アイデア提供者においては、実証を行うフィールド、東京都や環境改善委員会との連携実績、提供サービスと地域課題のマッチング機会が得られることであり、フィールド提供者においては、自社が保有するフィールド価値向上に資する課題解決アイデア、自社の課題解決に資する課題解決アイデアが得られることである。また、全ての課題解決PTの参加者が共通で多様なステークホルダーが一つの方向に向かって議論する中で1社では実現困難な制度改革への取組が行えるというメリットが

ある。

■ 課題解決PT(中長期)での討議の枠組み(案)(P.30~31)

- 環境改善委員会の取組内容やアイデア募集の内容をインプットに、中長期的な課題解決のアイデアや西新宿のスマートシティ化に向けたサービス間連携の在り方に関して、自由に意見交換を行いたい。

—以下討議内容—

(発言者A)

- 中長期視点のロードマップを検討し、異なる時間軸で実装されるソフト面とハード面の課題解決方法を一对で考えることが重要である。
- 多様なステークホルダー及び 500 人のコミュニティ参加者を含め、「つながり」を重視したまちづくりの方向性を検討するべきである。

(発言者B)

- 本年度実施する実証は、直ぐに実装可能なサービスであるが、今後は中長期視点での課題解決策の検討も並行して行われるべきである。特にまちの基盤整備に向けた検討には、十分な時間をかける必要がある。

(発言者C)

- 中長期的な視点でまちづくりの議論はすでにエリマネでも実施されている。西新宿スマートシティプロジェクトにおいても課題解決にとどまらず、多様なステークホルダーと長期的な視点でまちの在り方を勉強・討議する場があっても良いのではないか。
- サービスの実装に限らず、サービスで取得されるデータの連携に向けた検討も必要である。将来的には、西新宿エリアのデータマップ(人流等の各種データをマップ化したもの)を構築し、エリア内のデータ蓄積やサービスの連携促進を図りたい。

(発言者D)

- 本年度実施される実証のうち、3~4件が混雑状況の可視化に係る実証であったが、企業によって「混雑」の定義が異なることが推察される。将来的なデータの連携・一部のオープンデータ化に向けて、西新宿における共通的な定義を定め、中長期的な視点をもって課題解決策を議論・検討するべきではないか。
- データ連携方法・共通ルールの整備を図るテストフィールドを西新宿において提供することで、サービスや生活の質の向上につながることを期待される。

(発言者E)

- 中長期的な検討においても企業が連携し、付加価値の向上を図ることは非常に重要である。

西新宿自体が多様な企業が協働できる場になることを期待する。

5. 広報・巻き込みTFの検討・取組状況の共有(事務局・東京都戦略政策情報推進本部ICT推進部)

- 広報・巻き込みTFの進捗共有 (P.34～P.35)
 - 広報・巻き込みTFでは、西新宿スマートシティプロジェクトのLINEとホームページを10月19日(月)に公開し、運用を開始した。また、西新宿スマートシティプロジェクトに関心を持つコミュニティメンバーとの合意形成の取組を予定しており、本日は各種取組の内容を共有する。
- LINE公式アカウント及びホームページの位置づけ(P.36)
 - ホームページは西新宿エリアで実施される各種取組の情報を集約及び発信する場所として機能させ、LINEは西新宿スマートシティプロジェクトに関心を持つ人々との継続的かつ双方向のコミュニケーションツールとして活用をしていく予定である。
- ホームページの概要 (P.37)
 - ホームページは、西新宿スマートシティ協議会の取組内容や西新宿の概要等の情報を掲載していく。今後も、より魅力的な情報発信の場として機能するよう、掲載内容を拡充していく予定である。
- LINEの概要 (P.38)
 - 西新宿スマートシティプロジェクトに関心を持つコミュニティメンバーに対して、LINEを活用した継続的かつ双方向コミュニケーションを実施していきたい。
- 西新宿における初年度の合意形成プロセス案 (P.39)
 - LINEを活用したコミュニティメンバーに対する合意形成の取組を実施する。西新宿の巻き込み活動において、ユーザーの意見を収集し各種取組に反映する。今年度は、小規模でも合意形成の取組が反映できることを重視する。
- 合意形成アジェンダ・スケジュール案 (P.40)
 - 環境改善委員会に協力いただき、初回の合意形成のアジェンダを11月に設定する予定である。また、課題解決PTの実証推進者と連携を図り、今年度は月1回程度の頻度を目指していく。広報・巻き込みTFメンバーより、広報・巻き込みTFの取組についての説明、コメントをいただきたい。

(発言者A)

- 広報・巻き込みTFでは西新宿のスマートシティ化に向けた取組として、協議会へのユーザーの巻き込みを大きなテーマとして討議を深めている。ユーザーから意見を収集し取組に反映する事で、ユーザーの西新宿の取組への参画意欲醸成を図る必要がある。
- ホームページを開設して情報発信を進めているが、ホームページの閲覧はユーザーが能動的に行う必要があるため、ユーザーが受動的に情報を受け取れるLINEの併設は有効であると考えている。西新宿のスマートシティ化に向けた取組に賛同いただけるユーザーを生み出すためには、有用な情報発信や魅力的なコンテンツの提供が重要である。
- アジェンダ設定は、ユーザーの巻き込み活動という観点から有効であると考えている。アジェ

ンダ設定の内容は必ずしもデジタルテクノロジーを活用したものに限らず、ユーザーの意見を反映できる内容を設定し、合意形成プロセスを回していくことが重要である。自身の意見が取組に反映されることでユーザーの参加意欲を醸成されると考えている。合意形成プロセスを回す事でユーザーの西新宿への関心を高めていきたい。

(発言者B)

- ホームページは、個社ごとに発表をしていた内容が統一的に発信されることで、西新宿への興味喚起や各種取組への参加意欲を醸成に繋がることを期待している。LINEは、ユーザーを巻き込むツールとしての有用であり、今後活性化していきたい。
- アジェンダはデジタルテクノロジーに限らない内容を設定し、取組内容に反映したいと考えている。

■ 普及啓発体験イベントの取組発表内容の共有(P.41～P.44)

(東京都戦略政策情報推進本部)

- 5G普及啓発体験イベントとして、以下の2つのイベントを実施する。
 - 1つ目の「あたらしい生活様式なるほど博」は、11月7日(土)と11月8日(日)に新宿住友ビル1階の三角広場で、多様な先端テクノロジーの体験機会を提供する。
 - 2つ目の「あたらしい西新宿の働き方なるほど月間」は、11月5日(木)から11月30日(月)に、京王プラザホテルと新宿パークタワーの2会場で期間を分けて実施予定である。西新宿エリアのワーカーを対象としており、Withコロナ時代における、働く上での課題を解決する5GやICTを活用したサービスを体験してもらう事を目的としている。人数制限は設けていないため、ぜひお立ち寄りいただきたい。
- 5G普及啓発体験イベント中に西新宿スマートシティ協議会として、以下の2つの取組発表を実施予定である。
 - 1つ目は、西新宿で実施される実証内容を掲載したパネルを展示する予定である。西新宿の取組への興味喚起や西新宿のコミュニティ参画を促す事を目的としている。パネルはA0サイズで、西新宿で実施する7つの実証、環境改善委員会が進められている実証及び東京都のスマートポールの実証を記載している。
 - 2つ目は、11月7日(土)午前に、メディア向けに西新宿スマートシティ協議会の取組説明及びクロストークの実施を予定している。クロストークは、宮坂副知事、東京都戦略政策情報推進本部ICT推進部の向本課長、一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会事務局の小林事務局長が登壇される予定である。西新宿での取組に関する認知・理解を深め、西新宿のコミュニティへの参加や西新宿スマートシティ協議会の各種取組への参画を促す事を目的としている。

6. 次回予定案内・閉会の挨拶(事務局・一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)(P.46)

- 次回の第4回協議会は3月上旬の実施を予定している。
- 次回のアジェンダは、本年度の検討結果・検証結果を確認及び次年度以降のアクションを共有予定である。
- 次回までの依頼事項として、協議会の各種取組に関する情報発信内容の確認やPT等への参画を通じて、引き続き西新宿のスマートシティ化に関与いただきたい。

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 皆様と議論できたことに感謝している。今後は長期的な視点においても議論や協議会の取組の可視化、取組の実践を重ねていきたいと考えている。環境改善委員会として、今後も引き続き西新宿スマートシティ協議会に積極的に貢献していきたい。

以 上